令和六年度　国語　中期　解答・解説

【五〇分・一〇〇点・配点詳細非公表】

【一】説明的文章

〈出典〉榎本博明『「上から目線」の構造〈完全版〉』（日経ビジネス文庫）。

著者紹介

臨床心理学者。大阪大学大学院助教授、名城大学大学院教授等を歴任。主な著書に『記憶はウソをつく』『「すみません」の国』などがある。

問一　漢字の「書き」

漢字力は、正確な読解に欠かせない重要な力である。語彙の学習は、学校の授業や自学自習をはじめ、日常生活のあらゆる場面で気にかけることから始まる。①読み、②書き、③意味理解、④語彙の用例、⑤構成や故事まで気にかけ、音読や書く練習をする、辞書を引く、語彙を利用して短文をつくってみるなど、工夫することが大切だ。

a **膨**（ふくらむ）

例）空気で風船が膨らむ。

b **麻酔**（ますい）

例）麻酔をかける。

c **染料**（せんりょう）

例）植物の藍を染料にする。

d **前提**（ぜんてい）

例）結婚を前提に交際する。

e **特徴**（とくちょう）

例）特徴のある声。

eは「特長」と混同しないよう注意しよう。「特徴」は〈事のよしあしにかかわらず他と比べて目立つ点〉という意味だが、「特長」は〈特にすぐれている点〉という意味である。

問二　空欄補充（接続語）

接続語の理解は、文と文、段落と段落のつながりや文章の構成を確認しながら読解する「構造的読み」を確立する上で重要である。このような問題を解くことで、論理的文章を書く力も養われる。接続語を何となくあてはめてみるといった感覚的な解き方でなく、前と後のつながりをしっかりと見極めることが大切だ。

空欄 い の前には「チンパンジーのいる部屋に鏡を置いてみた」という内容が、後には、そのことに対してチンパンジーが示した反応が書かれている。つまり、空欄の前後が《原因→結果》という繋がりになっているのだ。そのため、順接の接続語である「すると」を選択しよう。

空欄 ろ の前では、「自己像を認知すること」について、「他者がこちらを見るように自分自身を見ること」と説明し、後では「他者のまなざしを取り入れること」と説明している。そのため、前に述べ

た事柄を言い換えることを示す接続詞「つまり」を選択しよう。

問三　空欄補充（四字熟語）

四字熟語は四字の漢字で構成される成句である。表現したい内容を端的かつ明瞭に示すことができ、わかり易く、豊かな文章表現において不可欠なものである。漢字と同様に熟語の知識も増やすよう努力しよう。

空欄 は は、「他人がこちらのことをどう思うかが自己だ」ということについて、具体例を用いて説明している段落に二か所登場する。「あなた」は学校の先生からは「迷いながらじっくり考えるタイプ」、友達からは「お前は決断力がない」というコメントを突きつけられた。「そのような「あなた」が親から言われる特徴が空欄 は だ。よって、《思いきりが悪く、ぐずぐずしていること》を意味する「エ　優柔不断」を選択しよう。

【その他の選択肢について】

ア　用意周到…万事行き届いて準備に手落ちのないこと。

イ　温厚篤実…穏やかで優しく、飾り気がなくて誠実なこと。

ウ　厚顔無恥…厚かましくて恥知らずなようす。

オ　天真爛漫…無邪気で屈託のないこと。

問四　本文理解（理由説明）

傍線部①の「そのような反応」とは、本文１行目の「鏡の中に映る自分の姿を他者と見なしているかのような反応」を指している。このような反応が「急減」したということは、チンパンジーが鏡に映る自分の姿を他者と見なさなくなったということだ。では、チンパンジーはどのような理解をするようになったのか。本文４行目では「鏡に映る姿が**自分の映し**だということを理解しているかのような反応」と、１０行目では「鏡像が **自分の姿の映し** だということを理解している」「チンパンジーともなると、**自分の鏡像**を理解し、利用することができる」と述べられている。これらの部分から、空欄にあてはまる七字の言葉を抜き出そう。

問五　本文理解（理由説明）

この設問に取り組むためには、「隔離して育てられたチンパンジー」が自分の鏡像を理解できない点について筆者がどのように述べているのか、丁寧に押さえる必要がある。

傍線部②の２行後には「自分の鏡像を理解するためには、**他者との視線のやり とり** を十分に経験しておく必要がある」、本文２ページ目の２行目には「それができるようになるには、**他者に向ける自分のまなざしと自分に向けられる他者のま**

なざしのやりとりを十分に経験しておくことが前提となる」とある。つまり、チンパンジーが自分の鏡像を理解するには、**他のチンパンジーとの視線のやりとり**が必要なのだ。隔離されて育てられたチンパンジーは、他のチンパンジーとの視線のやりとりをあまり経験していないと考えられる。そのため、自分の鏡像を理解できなかったのだ。これらの部分から、空欄にあてはまる十一字の言葉を抜き出そう。

問六　本文理解（表現の意味）

この設問に取り組むためには、「他人を鏡にする」という比喩的な表現を解釈する力が求められる。傍線部③の１行前に「他人を鏡にして映し出された姿が自己である」とあるように、「鏡」とは自分の姿を映すもののたとえだ。私たちは「鏡」に自分の姿を映し、その映った像を見て自分の姿を知る。これと同じように、**私たちは、他者の目に映った自分を、その他者を通じて知ることによって自己を理解する**のだ。言い換えれば、**他者が自分をどのように見ているのかを知ることで自己を理解する**ということである。本文２ページの５行目には「私たちは、いろんな人とのやりとりを通して、『他の人たちから見ると、自分はこんなふうに見えるんだ』ということがわかるようになる」、７行目には「自分がどんな性格かといった内面の自己像も、『人からどのように見られているか』を知ることによってつかんでいく」とある。以上の内容を満たす**ア**を選択しよう。

【その他の選択肢の検討】

イ　「他者の視線から解放されることによって」が不適当。他者からどう見られているかというまなざし（視線）を知ることで自己の内面をつかんでいくのだ。

ウ　「他者がこちらに差し出す意見に従うことによって」が不適当。「従う」とは述べられていない。

エ　「他者の行いの善し悪しを見ることによって、自分自身の行いを反省できる」が不適当。《人のふり見て我がふり直せ》という内容は本文には無い。

問七　本文理解（全体把握）

この設問に取り組むためには、筆者の主張を的確に捉え、本文全体の内容を理解する力が求められる。

本文はまず、チンパンジーの鏡像実験という具体例から始まる。自分の鏡像を理解し、利用することもできるチンパンジーと、自分の鏡像を理解できない隔離して育てられたチンパンジーという、対照的な両者の姿から、筆者は「自分の鏡像を理解するためには、他者との視線のやりとりを十分に経験しておく必要があ

る」と分析している。

また、チンパンジーの実験から分かることとして、私たち人間の自己理解についても述べている。私たち人間は「人からどのように見られているか」を知ることで自己像をつかんでいる。つまり、「他人を鏡にして自己を知る」のだ。そして読み手に自身の性格について考えるよう促し、「かかわりのある周囲の人たちから」の「コメント」から自己像が組み立てられていくのではないかと、自身の考えを示した。

以上の内容を踏まえ、各選択肢の内容が本文のどこに当てはまるのか丁寧に押さえよう。すると、選択肢**ウ**「筆者が不安視しているように、人付き合いには慎重になろう」が誤りだと分かる。

【その他の選択肢の検討】

ア　本文２ページの５行目「チンパンジーの鏡像実験は、私たちの自己理解に関して、有益なヒントを与えてくれる」と一致。

イ　問五の解説を参照。

エ　問六の解説を参照。**他者が自分をどのように見ているのかを知ることで自己を理解する**ことができるのだから、「他人を鏡にする」機会を活かすことで「自分がわからない」という状態を回避できるだろう。

問八　文章比較　本文理解

この設問に取り組むためには、複数の文章を比較し、その共通点や相違点を捉える論理的な読解力が求められる。

本文が自己理解と他者の存在の関係性について述べているのに対し、【文章１】ではその他者の存在が自己の抑圧につながっていると述べている。【文章１】で描かれている、友人と関わる際に空気を読んだり相手に気をつかっている最近の若者の実態から答えを導こう。

答えは「Ａ　自己」「Ｂ　他者」「Ｃ　他者」「Ｄ　自己」となる。

問九　資料比較　本文理解

この設問に取り組むためには、グラフや表といった文章以外の対象から正しく情報を読み取る力が求められる。特に、最大値や最小値、割合への着目が必要だ。

【図１】によると、人と接する際の態度について、「いつも同じような態度でいようとする方」が「相手や場面に合わせて態度を変えようとする方」を八ポイント上回っている。地域別に見ても、全地域において「いつも同じような態度でいようとする方」が多い。男女による差も観られない。年齢別に見ると、「いつも同じような態度でいようとする方」の割合が、年代が上がるほど高くなる傾向がある。

一方、年代が低いほど「相手や場面に

合わせて態度を変えようとする方」の割合が高くなる傾向がある。このような他の項目では見られない特徴を読み取ろう。そして、この特徴が述べられている選択肢エが正解となる。

【その他の選択肢の検討】

選択肢アは、「私も友達も悩みを言わない」ことを「他人を鏡にして映し出された姿が自己」と解釈している点が不適当。

選択肢イは全体的に不適当。友人から認識されている性格が悩みや不安に影響を与えるとは述べられていない。

選択肢ウは「筆者がしているように」以下の内容が、本文では述べられていないものである。

【二】　文学的文章（小説）

〈出典〉

【本文】垣谷美雨『父が運転をやめません』（角川文庫）

【資料】

住友達也『ザッソー・ベンチャー　移動スーパーとくし丸のキセキ』（西日本出版社）

作者・著者紹介

・垣谷美雨（かきや　みう）…小説家。ソフトウェア会社勤務を経て、二〇〇五年「竜巻ガール」で第二十七回小説推理新人賞を受賞し、小説家デビュー。二〇一八年、『あなたの人生、片づけます』で第十二回啓文堂大賞文庫大賞を受賞。同二〇一八年、『老後の資金がありません』で第四回ミヤボン（宮脇書店）２０１８受賞。

・住友達也（すみとも　たつや）…株式会社とくし丸代表取締役。二〇一二年、移動スーパー「株式会社とくし丸」設立。

問一　漢字の問題

基礎的な漢字を問う問題。中学校までの既習範囲の漢字から出題している。日頃から意識的に自らの手で漢字を書く練習をしよう。

a　**雰囲気**（ふんいき）

例）明るい雰囲気の人。

b　**閑散**（かんさん）

例）閑静な住宅街。

c　**刺激**（しげき）

例）世論を刺激する。

問二　語彙の問題　内容理解の問題

前後の定型的な表現や、文脈をもとに空欄を補充する問題。こうした問題では、選択肢を見る前に空欄の前後を読んで吟味する。Ⅰは直前に「気分が」とあり、前後の文脈から「ヒマワリ号」が成功しそうだという期待が読み取れるため、「高揚」がふさわしい。Ⅱは「高齢化」がはっきり目に見えるようになったという文脈であ

り、「顕著」が入る。Ⅲは直後に「芽生えた」とあり、雅志が自分の仕事を家族に誇れると感じている文脈であり、「自負」が最適。Ⅳは選択肢の語彙も難しいが、Ⅳの直後に「振れる」とあるため、「羅針盤」しか入らない。

問三　心情を問う問題

「なぜか」と理由を問う問題だが、そうした場合、傍線部の直前か直後に解答の根拠が書いてある。ここでは傍線部①の直後が解答の根拠である。

問四　内容理解の問題

この設問も、理由を問うている。やはり解答の根拠は傍線部②の直後に書いてある。「賑やか」にはなったが、今後実家に毎度人が集まってくることで、父に「煩わしい人間関係」を背負わせるかもしれないと考えたため、停車場所を実家の外にすべきだったかと「ふと後悔」しているのである。

問五　視点人物以外の心情を問う問題

【本文】は「雅志」（＝本文中では「自分」）の一人称視点になっているが、この設問は、視点人物ではない息子「息吹」の心情を問う問題である。こうした問題では、本文に明確な根拠が書いていない場合もあるが、素直に、一番妥当だと思われる選択肢を選ぶ。傍線部③の直後に、息吹は「真剣な顔つき」だとあり、また本文から、息吹は母である歩美にはすでに転校の意思を告げており、明確に反対されていたことが読み取れる。父も当然、転校には反対するはずだと思いながらも、自分の意思をはっきり伝えたいと思っている息吹の心情が読み取れる。

問六　心情を問う問題

「自分」の心情を問う問題。傍線部④の直後に解答の根拠となる「自分」の心情が明確に書いてあるため、素直に読めば解ける。

問七　内容理解の問題

「息吹」の発言が空欄になっており、正しい順番に空欄を補充する問題。どれか一つでも空欄に入る台詞がわかれば、自ずと正しい選択肢がわかる問いになっている。母歩美も、父雅志（「自分」）も、「息吹」の転校に反対していることが読み取れていれば、ｉから順番に補充できるだろう。

問八　表現の特徴を問う問題

選択肢に示された表現の特徴と、その表現意図のつながりを考えて正答を選ぶ。選択肢アは、本文では比喩表現が「多用」されているとはいいがたい。イは、本文

は「自分」の一人称視点で書かれ、出来事に対して心情が明確に書かれているので、正しい。ウは、たしかに会話文で方言が多用されているが、それが「息吹」の心情に関係するとは読み取れない。エは、「移動スーパー」の「ビジネスとしての魅力」は本文から感じ取れはするが、本文そのものにおいては、そうした魅力を「読者」に「紹介」するような構成ではない。オは、星空の表現は本文にあるが、それと「息吹」の将来との関係は読み取りがたい。

問九　資料比較の問題　内容理解の問題

（1）空欄X・Yの直前に、「それはグローバルでもデジタルでもなく」とあるので、「グローバル」と「デジタル」の対義語となる語が入る。

（2）【資料】と本文を比較し、本文の内容を問う。複数資料の読解は時間がかかるので、時間配分を誤らないように注意しよう。ただ、今回の設問は実質的には本文の内容理解を問うている問題となっている。選択肢のアは「フライビーンズ」が本文にも登場し、正しい。イは「ヒマワリ号の停車場所を、その時たまたま人が集まっているところにしている」という部分が本文と相違している。ウ、エは本文中に該当する描写があり、正しい。オは、本文でも「ヒマワリ号」が高齢者の「見守り」につながっているような描写はあるが、そうした「見回り活動」に対する『『自分』の意気込み」は描かれていないため、誤り。

【三】　古典

〈出典〉『御伽草子』「さいき」（岩波文庫）

室町時代の短編物語の総称『御伽草子』に収められた遁世譚（とんせいたん）。九州の佐伯という男が在京中に女と結ばれる。この京の女は高貴な人で、そのおかげで佐伯の訴訟も解決する。佐伯は女に必ず迎えに行くと約束して帰郷する。しかし、佐伯は女との約束を忘れてしまう。三年後、京の女は佐伯に手紙を書く。それを読んだ佐伯の本妻は、その文面に感銘を受け、妻の座を譲ろうと女を豊後に招く。豊後に到着後、本妻の出家を知った女も、続けて出家する。二人の女を失った佐伯も出家し、最後は三人が阿弥陀三尊となる、という展開。

問一　歴史的仮名遣いの問題

歴史的仮名遣いの読みは、音読をしながら力をつけよう。語中・語末の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「ワ・イ・ウ・エ・オ」と発音することや、母音（a・i・u・e・o）が連続するときは長音になるこ

と、歴史的仮名遣いのみにあるワ行「ゐ・ゑ」などに意識を向け音読し、現代仮名遣いで表記する練習をしよう。

① い**へ**ども→い**え**ども

② か**ひ**なし→か**い**なし

⑤ か**やう**→か**よう**

⑤「ｋａｙａｕ」のように、「ａｕ」と母音が連続すると「オー」という長音になる。

問二　内容理解

この設問に取り組むためには、現代語訳や語注を活用し、佐伯の状況を理解することが求められる。豊後の国に住んでいる佐伯は、訴訟のため京都に来ていた。しかし、その訴訟がはかどらないため、清水寺を訪れ、傍線部③のように考える。「御夢想」とは、選択肢ア～エすべてに書かれているとおり、ここでは「仏様の夢のお告げ」という意味だ。なかなか進展しない現状に、祈りを捧げて「御夢想」を得ようと「思ひ立」った佐伯の心情が反映されている**イ**を選択しよう。

【その他の選択肢の検討】

ア：「仏様の夢のお告げを頂けるかはともかく」が不適当。佐伯は「御夢想」を得るために清水寺に七日間こもって祈念しようと「思ひ立」つのだ。

ウ：「仏様の夢のお告げを頂いたので」が不適当。傍線部の時点ではお告げがあったかどうか不明瞭。また、直後の「さしたる御夢想もなかりけり」という内容とも矛盾している。

エ：「故郷を離れよう」が不適当。傍線部の時点で、佐伯は故郷の豊前を離れ、京都まで来ている。

問三　文法（活用形）

この設問に取り組むためには、活用形に関する知識が求められる。活用形とは、動詞などの活用語が、他の語に続いたり言い切ったりする時に変化する語の形のことだ。活用形は六種類あり、それぞれ下に続く主な語が存在している。現代語文法の知識を応用させることで答えは導き出せるだろう。

傍線部④「申す」について文法的に説明すると、④の「申す」は下に「童」と〔**名詞**〕、すなわち体言が続いている。よって活用形は〔**連体形**〕となる。

このように、空欄Ⅰには「名詞」、Ⅱには「連体形」が当てはまる。

問四　文法（助詞）

この設問に取り組むためには、助詞「の」に関する知識が求められる。傍線部⑥の「の」は、主語を示す働きをしている。そのため、**ウ**（心**が**耐えられてなくて）を選択しよう。

問五　内容理解（主語判定）

この設問に取り組むためには、動詞や登場人物同士の関係などから主語を定める力が求められる。

傍線部⑦の直前に「御こもり候か」という発言がある。それを「聞かぬ顔」、つまり《聞いていない（ような）顔》をしているのは誰か。直前の発言主を定めることで問五の答えも導き出せる。

佐伯は深くお祈り申し上げるが、「さしたる御夢想もなか」った。この清水寺にこもっていた時、佐伯は「みめかたち世にすぐれたる」女、つまり《美女》と出会う。問四の解説にあるように恋心が耐えられなくなった佐伯は、女に「ことばをかけんと思」い立ち、「御こもり候か」と声を掛けたのだ。よって、傍線部⑦は佐伯の言葉に対する女の反応である。設問の指示に従い、「**女房**」と漢字二字で解答しよう。

問六　内容理解（人物の心情）

この設問に取り組むためには、傍線部⑧の直前にある「もし主ばしあたりに有るやらん」がどのようなことを述べているのか捉える力が求められる。

問五の解説で述べたとおり、佐伯は女に声を掛けるが、無視される。この女の反応の理由について推察しているのが「もし主ばしあたりに有るやらん」だ。佐伯は《もしかしたら「主」が周辺にいるのだろうか》と考え、傍線部⑧のような「しづ心もな」い、動揺した状態になるのである。そして、ここでの「主」とは、主従関係ではなく、配偶者を指す。女に声を掛けた男が動揺する状況としては、女が仕える主人ではなく、夫が近くにいる方が適当だろう。以上の内容を満たす**ウ**を選択しよう。

【その他の選択肢の検討】

ア・イ　傍線部⑧を「女性の状態」と捉えているため不適当。問五と同様、主語を押さえているかがポイントである。

エ　佐伯の心情を「美しい女性に声を掛けられたらどのように返事しようか」と解釈しているため不適当。傍線部⑧より前の段階で、佐伯が女に「御こもり候か」と声を掛けている点からも、本文の内容と合わないことが導ける。

《本文の現代語訳》

豊前国のうだの佐伯と申す人が、一族に領地を盗まれ、京都へ上って訴えたのだが、いっこうにはかどらず、年月を送っていても何の進展もない。これではどうしようもないと思い、清水寺に参詣して、七日間籠って、夢のお告げをいただき、それに任せてどのようにでもなろうと思い立ち、たけまつと申す童を一人連れて参り、深くお祈り申し上げるが、結

局これという夢のお告げもなかった。（その参籠中）まわりをじっと見ていると、年のころ二十歳くらいの女人で、その顔かたちは世にすぐれている人が、すべて水晶でできた数珠を指先で動かし、念仏も半ばと見受けられる様子であるのを、佐伯は、心の中で、同じ人の世に生きるならば、このようなひとと一夜でも枕を並べることもできないものかと、あまりに（恋）心が（募り）耐えられなくて、言葉をかけようと思い、近寄って、「ご参籠ですか」と申したのだが、（女人は）聞こえないような顔つきでいましたので、ひょっとして夫でもそばにいるのだろうかと、落ち着いた心持ちではいられなかった。